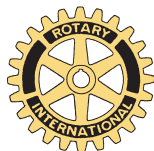


THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 鈴木 豊
幹事 小川 耕示
会報委員長 丹羽 克誌

2013～2014年度 国際ロータリー ロンD.バートン 会長テーマ

Engage Rotary Change Lives ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2837回例会プログラム

[当年度=29回目；当月=3週目]

2014年（平成26年）3月17日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……
それこそロータリー
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事
- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. 幹事報告
9. 出席報告
10. 委員会報告
11. ニコニコボックス報告
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(3/24) ……休会
(クラブ定款第6条第1節(c))
(3/31) ……
新入会員アワー 中川 耕児 会員
" 佐野 彰彦 会員
- 13:00 13. 本日のプログラム
卓話 「軽自動車の動向」
講師 ダイハツ工業株式会社
代表取締役会長 伊奈 功一 様
(紹介者 嶋津 孝久 会員)
14. 謝辞
15. 点鐘……〈会長〉
16. 閉会宣言
- 13:30 17. 散会

出席

会員総数 96名 出席免除 26名
出席義務者+免除者の内例会出席者 89名
欠席 6名 出席率 93.26%
前々回(3/3)の修正出席率 100%

会長報告

- 1) 3月16日、石巻ひがし保育園の落慶式典に前田孝司60周年実行副委員長、加藤真治60周年記念事業副委員長と共に参りました。

委員会報告

●創立60周年実行委員会

- 1) 創立60周年実行委員会の記念誌委員会からお願い致します。60周年記念誌に掲載する3点の写真(ご家族、仕事、趣味)の提出を3月31日までにお願い致します。

会長あいさつ

「チームワークとは個を消すのではなく、
長所を生かしあうこと」

鈴木 豊



石川島播磨重工業や東芝を再建し、後に経団連会長、中曽根内閣の臨時行政調査会会長として国鉄などの民営化を推進した土光敏夫氏は、休日返上で仕事に情熱を傾けた経営者として知られています。

土光氏が東芝の再建のため社長に就任したとき「社員諸君にはこれまでの3倍働いてもらう。役員は10倍働け。私はそれ以上に働け」と役員を一喝した話は有名ですが、就任後もモーレツ経営者ぶりを発揮。「役職が上の人間ほど早く出社しろ」を口癖にし、7年間で東芝の立て直しに成功しています。

一汁三菜の食事に徹した清貧な暮らしと、「カミナリ

親父」という照合は土光氏を象徴していますが、必ずしも精神論だけでなく、徹底した熟慮の上に構築した独自の理論があります。

それを象徴する言葉は「チームワークとは個を消すのではなく、長所を生かしあうこと」に代表されます。土光氏は「萩生徂徠の言葉に『人はその長所まみとらば可なり、短所を知るを要せず』とありますが、どんな人にも長所短所がある。そこに人生の妙があるのに、人が人を見る時は長所を見たがらずに短所を見たがる。こんなマイナス評価は、人の心を腐食するばかりだ。短所を知るを要せず」と語っていたことを思い出します。

チームワークづくりについても「どんな人にも必ず1つぐらいは長所がある。上に立つ者はその長所を活用するのだ。長所をどんどん伸ばしていくと、短所はだんだん影を潜めていくものだ」と。

そして「複数の人による共同作業のとき、もっとも重要なチームワークといわれるのも、各人の長所をうまく組み合わせることにほかならない。1人ひとりの長所が異質であればあるほど、チームワークの相乗効果は大きい」

肝に命じたい言葉のひとつです。

卓 話

「軽自動車の動向」

ダイハツ工業株式会社

代表取締役会長 伊奈 功一 様



軽自動車は、1949年、容易に入手できる「国民車」として日本独自の規格として生まれた。形状、排気量（660cc以下）、定員（4名以下）に制約があるが、税金や高速料金などが優遇されている。また、日本の狭隘な国土に適した小さなクルマとして、公共交通機関が不便な地域で欠かせない交通手段となっている。

ダイハツでは、軽自動車の燃費と価格でより一層存在感を示すために、ミラ・イースを開発した。「ハイブリット並みの燃費をハイブリットの半額で」をキャッチフレーズとして開発し、2010年に発売した。このミラ・イースは大ヒットし、その後の「燃費と価格」の競争の火付け役となった。ミラ・イース開発の考え方の概略を今回、話をさせて頂いた。

昨年、税制改正が実施され、軽自動車税が、7,200円から10,800円に引き上げられることになった。断固反対の活動を実施してきた我々には、本当に残念な結果である。国際的に比較して、軽自動車税が標準であり登録車の自動車税が高すぎるとの認識が自動車業界の一致した見方である（図1）。

この主張に基づき、軽自動車の制度をしっかりと守りながら、今後も、より一層魅力ある軽自動車を開発、提供し続けていきたい。

図1

